

# 高齢者インフルエンザ予防接種説明書

【対象者】 ※希望者のみ

①接種日に 65 歳以上の方

②接種日に 60～64 歳で心臓、腎臓、呼吸器の機能に障害があり身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（H I V）による免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方。

【接種期間】

令和7年 10 月 15 日～令和8年 1 月 31 日

【接種費用】

1,200 円

ただし、生活保護受給者等は申請により無料になります。

【接種場所】

江南市、犬山市、大口町、扶桑町（尾北医師会管内）にある接種協力医療機関  
上記以外の医療機関で接種を希望する場合は、事前に手続きが必要です。

【接種回数及び量】

期間中に 1 回、0.5mL を皮下注射します。

## 1. インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が急に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状もみられます。高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎などを伴い重症化することがあります。

## 2. ワクチンの特徴と予防接種の効果

インフルエンザワクチンは、流行の中心となることが予測される A 型株と B 型株を対象とした3価の不活化 HA ワクチンです。

インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があるとされています。

## 3. ワクチンの副反応

比較的多くみられる副反応は、接種部位の赤み（発赤）、はれ（腫脹）、痛み（疼痛）などで、接種者の 10～20%に起こりますが、通常 2～3 日で消失します。全身症状としては、発熱、頭痛、寒気（悪寒）、だるさ（倦怠感）などが接種者の 5～10%に起こりますが、こちらも通常 2～3 日で消失します。

また、まれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫など）がみられることもあります。その他の重大な副反応としては、ギラン・バレー症候群、けいれん、肝機能障害、血小板減少性紫斑病などが報告されています。

#### 4. 予防接種を受ける前に

##### (1) 一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に接種医に質問しましょう。予診票は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方、またはその付き添いの方が責任をもって記入しましょう。

##### (2) 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常 37.5℃以上）
- ②重篤な急性疾患にかかっている方
- ③インフルエンザ予防接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ④インフルエンザ予防接種で、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
- ⑤その他、予防接種を行うことが不適当な状態にあると医師が判断する方

##### (3) 予防接種を受ける際に、医師と相談が必要な方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患を有する方
- ②過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ③過去に免疫不全の診断がなされている方および近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ④間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患がある方
- ⑤インフルエンザワクチンの成分または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーをおこすおそれのある方

##### (4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①接種後 30 分間程度は、医師とすぐに連絡をとれるようにしましょう。
- ②接種後 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

#### 5. 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった場合、あるいは生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。